

令和 5年度
秋田市地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会 研修会

豪雨被害を受けた 地域包括支援センターを振り返る

中通地域包括支援センター幸ザ・サロン
竹内 さおり

令和5年11月17日(金)

圏域(中通・南通・楡山)について

秋田駅が近く商業施設、集合住宅が集まっている。

医療機関・保育施設・教育機関が充実している。

リノベーションされた建物で注目を集め、飲食店や雑貨店などに利用されている。

日中は人の流れが多い。(中通・南通)

市街地周辺は公園、山、川に囲まれ自然が身近にある。

昔は佐竹藩の武士が住んでいた地域。一步通行道路が多く道幅は狭い。

古い家が多く、空き家が増加している。(楡山)



本日お話しすること

- ・大雨予報が出たとき、準備できること
- ・大雨が降っているとき
- ・事務所の状況、その影響
- ・実際の動き
- ・水害を経験して得た教訓

大雨予報が出たとき、準備できること

今年7月14日、「災害級の大雨になる可能性」と各報道媒体が報じていました。

1、中通地域包括支援センター(以下、センターと標記)がある建物(中通ビル)は安全か。

- これまで大雨が降るたびに1階部分への浸水、雨漏りあり。
 - 過去に浸水した勝手口付近や低くなっている部分、窓付近に紙おむつを。
いざ浸水した際に吸水させるため。
 - 正面玄関はスロープがあり、少し高くなっている。
 - 「きっと浸水まではしないだろう。」
 - 仕事道具(PC端末、電話、機器ケーブル、ACアダプターなど)の管理。
 - 過去、大雨で支障が出たことはない。「今回もそこまでは大丈夫だろう。」
- ※令和4年、強風で電話回線が障害を受けたことはあったが…

大雨予報が出たとき、準備できること

2、移動手段、通勤・帰宅経路、移動手段は安全か。

- ・社用車1台、職員1人の自家用車がセンター駐車場、職員5名は近隣の駐車場を使用している。
 - 「社用車を近くの有料駐車場に移動する？」声は出たものの、いつもの雨漏り対策に終始し移動せず。「明日は土曜日、仕事は休みだし。」
 - 7/15(土) 一人の職員が振替出勤する予定。
- ・職員6人の自宅は秋田市東部5人、南部1人。
 - 全員が川を渡らなければ帰れない、川の近くを通らなければならぬ。

大雨予報が出たとき、準備できること

3、地域の避難場所の確認。

- ・避難場所の確認(指定避難場所、福祉避難所)
→災害の種類により避難場所が指定されている。

4、心配な高齢者へ避難等に係る連絡。

- ・川の近くに住んでいる人。
- ・運動機能の障害等により移動がむずかしい人や認知症の人。

大雨予報が出たとき、準備できること

振り返ると・・・

1～4 すべてにおいて

「きっと大丈夫だろう。」

「仕事に影響はないだろう。」

という根拠のない安心感をまとっていました。



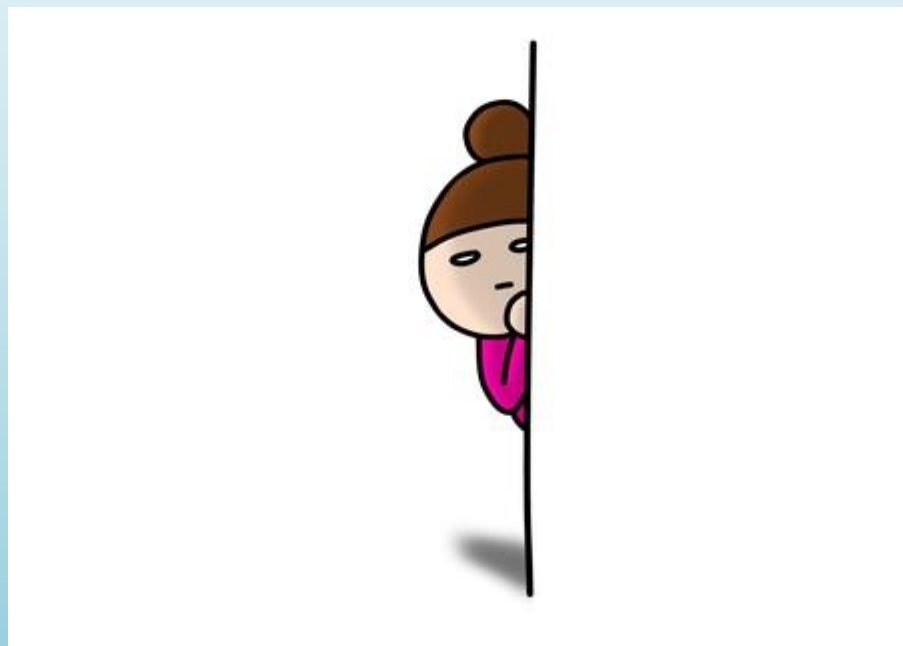
大雨が降っているとき

7月14日から降り続いた雨は勢いを増し7月15日を迎えました。

- 10時ころから出勤している職員に対し帰宅を促し11時過ぎに業務を切り上げ退勤したことを確認。
- 自宅にてケーブルテレビで雨や川の様子をチェック。
- 一人の利用者から、「どこに避難すればいい？」と相談あり。開所している避難場所を市役所防災安全対策課へ問合せ自身で避難可能か確認。

大雨が降っているとき

画像・映像をご覧ください。





「中通包括、没・・・。」



大雨が降っているとき

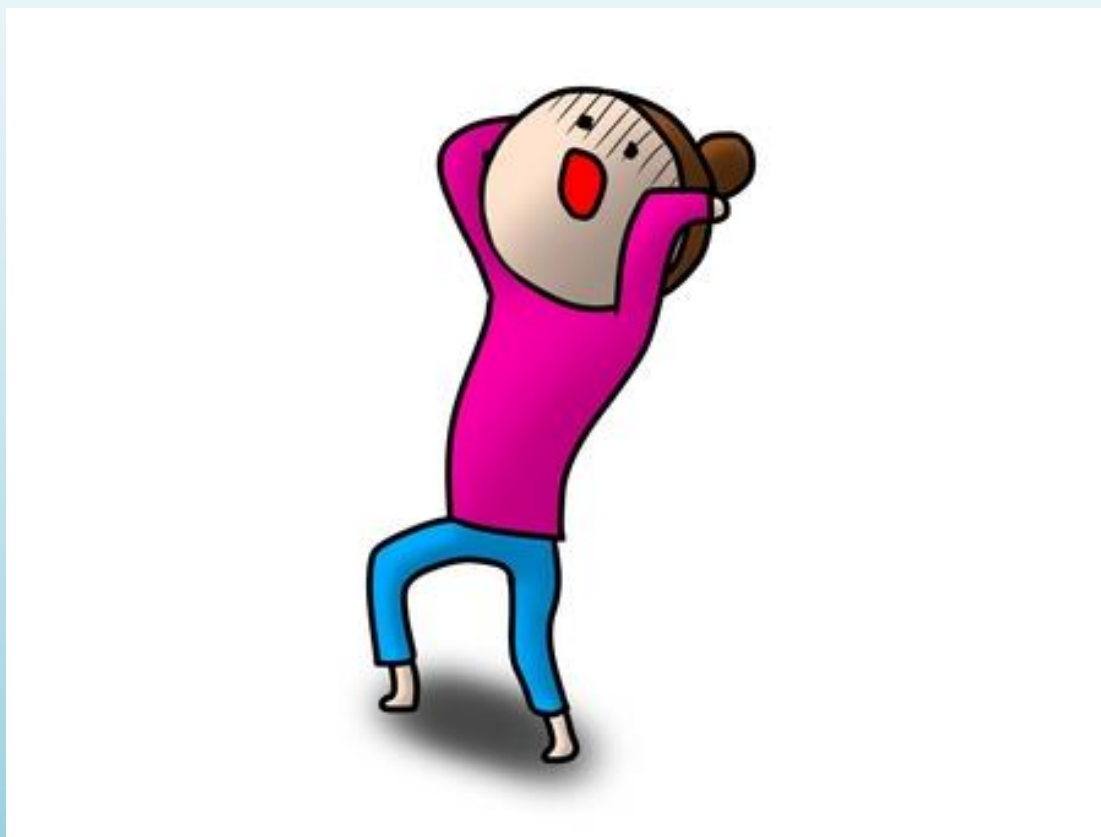
駆けつけるすべなく。グループLINEで職員の安否確認。

早く雨が止むのを願い、圏域住民と職員の安全を祈るのみ。この間、職員同士で通行不能の場所、冠水情報を共有しました。

被害状況を想像し復旧の工程、日程、利用者の安否確認に思いを馳せる。

事務所の状況、その影響

7月16日の画像をご覧ください。





包括の事務室 机の下には様々な配線やアダプター
ハブが。すべて水没。

14.



白い床が茶色で
覆われた会議室



水が引いた後



事務所の状況、その影響

7月17日、(3連休最終日)復旧のため職員集合

- 1、全館停電。
- 2、電話・メール・FAX不通。
- 3、包括システム、作業用パソコンは使用不能。

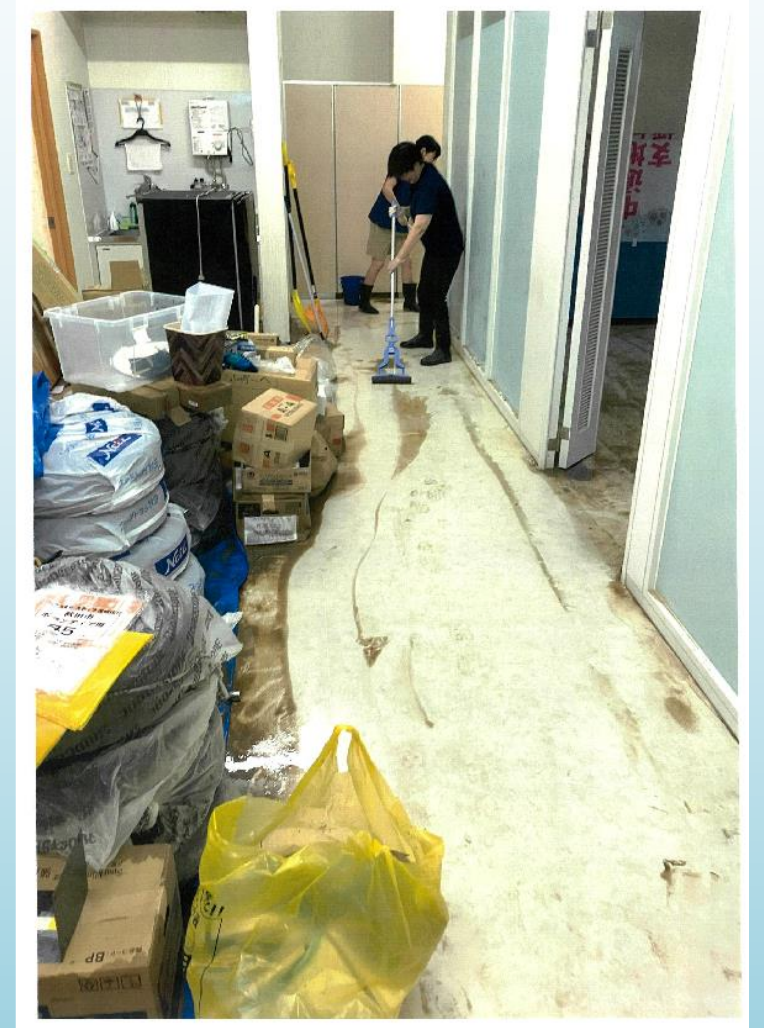
事務所の状況、その影響

1、全館停電。

自宅にある掃除用具を持ち寄って集合。

猛暑のなか空調が使えずとにかく泥の
掃き出しをした。
泥水に浸かった書類や事務用品が山のよう。

水分補給が命だったが、水分を摂ることも
忘れて。



事務所の状況、その影響

2、電話・メール・FAX不通。

秋田市長寿福祉課職員より管理者携帯へ電話連絡あり。

- ・センターの状況確認
- ・連絡体制の確保について
- ・包括の電話がつかない場合、法人を連絡窓口とすることなど
対策を取ることを助言される。
一次的な連絡先として秋田市ホームページにアップロードして
もらえることとなる。

事務所の状況、その影響

2、電話・メール・FAX不通。



電話不通とはいえ、包括用の携帯への転送は可能。

連絡手段を失うことの不安感は大きい。

- ・圏域利用者担当のケアマネジャーからの相談を他包括が受けてくれた。
- ・電話が繋がらなかったため困っていた相談者もいた。

いつしか連絡媒体は復旧しましたが、様々な業者に問合せ、復旧するまで大変な労力だったという記憶が残っています。詳細はよく覚えていないのですが。

事務所の状況、その影響

3、包括システム、作業用パソコン使用不能。

電気、電話、FAX復旧後はたて続けに相談や
安否確認の依頼が入る。

情報の確認や記録ができず、メモが頼り。

雑紙にマジックで記入し、職員がメモを見ながら情報共有し
対応する。

実際の動き

【安否確認】

- 担当している利用者。他機関を通じての依頼もあり。
- 民生委員や町内会長が独居世帯を回っていた。
- 独居世帯で避難所に避難した人や連絡が取れない高齢者について情報提供いただく。
- これまで見守りしてくれた人達も被災し「これ以上の協力は限界」との声も。

実際の動き

【相談対応】

住まいや生活の相談

(・介護保険 ・認定申請 ・訪問介護 ・入浴支援 ・ショートステイ
・施設入所 ・公営住宅 ・不動産屋への連絡 など)

被害の相談先へのつなぎ

民生委員と避難先へ訪問

長寿福祉課と連携し新たな住まいの確保のための相談。

(一定期間集中的に。)

実際の動き

水害による安否確認、相談対応、訪問など通常業務や
センターの復旧と同時進行させることの大変さを痛感。

センターを離れている間、業務を預かってくれた職員たち
水分を差し入れしてくれたり片付けに手を貸してくれた事業所の方
相談の応援に駆けつけてくれたF弁護士
私たちに代わって訪問してくれたボランティアセンターの方
助けられて業務を継続することができました。



水害を経験して得た教訓

- 「災害級の〇〇」「●年に一度の〇〇」と耳にしたら、最大級の警戒と準備が必要である。
- 職員の安全は最優先する。動けるうちに動く。無理に動かない。
- 業務に使用するものは床に置かない。ケーブル、アダプター類が水没すれば影響は甚大である。
- 地域の人、関わりのある人との日頃からのお付き合いは大切。

水害を経験して得た教訓

- 水害に関わらず、あらゆる災害や感染症に対して予測をたて被害を想定した準備をする。
- 今回、水害に遭い、自宅を離れなければならない人、どうしても動きたくない(動けない人)、施設しか行き場所がない人と話しをしました。安全な生活場所の確保とはいえ住み慣れた場所での暮らしが叶わなくなった方の心情を受け止めること、寄り添うことを大切にしたいと感じました。

お話しは以上です。

ありがとうございました。

